

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成24年8月8日

【四半期会計期間】 第89期第1四半期(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)

【会社名】 北海道電力株式会社

【英訳名】 Hokkaido Electric Power Company, Incorporated

【代表者の役職氏名】 取締役社長 川合克彦

【本店の所在の場所】 札幌市中央区大通東1丁目2番地

【電話番号】 011(251)1111

【事務連絡者氏名】 経理部決算グループ グループリーダー 林秀博

【最寄りの連絡場所】 東京都千代田区丸の内1丁目6番5号
北海道電力株式会社 東京支社

【電話番号】 03(3217)0861

【事務連絡者氏名】 業務グループ グループリーダー 松井利顕

【縦覧に供する場所】 北海道電力株式会社 旭川支店
(旭川市4条通12丁目1444番地の1)

北海道電力株式会社 札幌支店
(札幌市中央区大通東1丁目2番地)

北海道電力株式会社 釧路支店
(釧路市幸町8丁目1番地)

北海道電力株式会社 室蘭支店
(室蘭市寿町1丁目6番25号)

北海道電力株式会社 函館支店
(函館市千歳町25番15号)

北海道電力株式会社 北見支店
(北見市北8条東1丁目2番地1)

北海道電力株式会社 岩見沢支店
(岩見沢市9条西1丁目12番地の1)

北海道電力株式会社 小樽支店
(小樽市富岡1丁目9番1号)

北海道電力株式会社 帯広支店
(帯広市西5条南7丁目2番地の1)

北海道電力株式会社 苫小牧支店
(苫小牧市新中野町3丁目8番7号)

証券会員制法人札幌証券取引所
(札幌市中央区南1条西5丁目14番地の1)

株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

株式会社大阪証券取引所

(大阪府中央区北浜一丁目 8 番16号)

(注) 上記の内、旭川、札幌、釧路、室蘭、函館、北見、岩見沢、小樽、
帯広、苫小牧の各支店は金融商品取引法の規定による備置場所では
ありませんが、投資者の便宜を図るため備え置きます。

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第88期 第1四半期 連結累計期間	第89期 第1四半期 連結累計期間	第88期
会計期間	自平成23年4月1日 至平成23年6月30日	自平成24年4月1日 至平成24年6月30日	自平成23年4月1日 至平成24年3月31日
売上高 (百万円)	146,173	138,604	634,439
経常利益又は経常損失 () (百万円)	6,740	17,782	9,669
四半期純利益 又は四半期(当期)純損失 () (百万円)	3,939	17,097	72,066
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	2,903	18,170	73,036
純資産額 (百万円)	408,368	303,843	327,280
総資産額 (百万円)	1,645,159	1,615,252	1,618,850
1株当たり四半期純利益 又は四半期(当期)純損失 () (円)	19.16	83.17	350.55
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)			
自己資本比率 (%)	24.18	18.14	19.54

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していない。
2. 売上高には、消費税等は含まれていない。
3. 第88期第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在していないため記載していない。第88期及び第89期第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在せず、また、1株当たり四半期(当期)純損失であるため記載していない。

2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社及び当社の関係会社が営む事業の内容について、重要な変更はない。また、主要な関係会社に異動はない。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の異常な変動等はない。また、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はない。

2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等はない。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績の分析

当第1四半期連結累計期間の売上高は、前年同四半期連結累計期間に比べ75億69百万円減の1,386億4百万円となり、これに営業外収益を加えた経常収益は、73億16百万円減の1,396億29百万円となった。一方、経常費用は、前年同四半期連結累計期間に比べ172億6百万円増の1,574億12百万円となった。

以上により、経常損益は177億82百万円、四半期純損益は170億97百万円といずれも損失となった。

セグメントの業績(内部取引消去後)は、次のとおりである。

電気事業

当第1四半期連結累計期間の販売電力量は、前年同四半期連結累計期間に比べ0.6%の増加となった。この内訳として、電灯・電力では、省エネルギーや節電の取組みによる影響はあったが、春先の気温が前年に比べ低く推移したことによる暖房需要の増加などにより、前年同四半期並みとなった。また、特定規模需要では、前年の東日本大震災の影響による業務用や産業用での落ち込みの反動などから、1.1%の増加となった。

当第1四半期連結累計期間の収支については、収入面では、販売電力量の増加や燃料費調整制度の影響はあったが、本州方面への融通電力量の減少などにより、売上高は、前年同四半期連結累計期間に比べ78億24百万円減の1,341億54百万円となった。支出面では、発電設備に係る定期検査費用の減少に加え、経営全般にわたる効率化に努めたが、「発電用原子炉施設の安全性に関する総合評価」(ストレステスト)への対応や定期検査に伴う泊発電所停止日数の増加による燃料費の増加などにより、営業費用は、前年同四半期連結累計期間に比べ172億79百万円増の1,494億85百万円となった。

以上により、営業損益は、153億31百万円の損失となった。

その他

当第1四半期連結累計期間の収支については、収入面では、建設業の売上の増加などにより、売上高は、前年同四半期連結累計期間に比べ2億55百万円増の44億49百万円となった。支出面では、建設業の売上原価の増加などにより、営業費用は、前年同四半期連結累計期間に比べ2億81百万円増の38億38百万円となった。

以上により、営業利益は、前年同四半期連結累計期間に比べ26百万円減の6億11百万円となった。

(参考情報)
 需給実績

種別		当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	前年同四半期比(%)
発電電力量	水力発電電力量 (百万kWh)	1,155	90.9
	火力発電電力量 (百万kWh)	5,157	143.3
	原子力発電電力量 (百万kWh)	784	21.5
	新エネルギー等発電電力量 (百万kWh)	25	110.7
	他社受電電力量 (百万kWh)	1,045 128	117.1 625.8
	融通電力量 (百万kWh)	8 24	99.1 2.1
	揚水発電所の揚水用電力量 (百万kWh)	10	31.5
	合計 (百万kWh)	8,012	97.5
損失電力量等 (百万kWh)	480	65.5	
販売電力量 (百万kWh)	7,532	100.6	
出水率(自流) (%)	95.1		

- (注) 1 他社受電電力量には、連結子会社の北海道パワーエンジニアリング㈱及びほくでんエコエナジー㈱からの受電電力量が含まれている。
 2 他社受電電力量及び融通電力量の上段は受電電力量、下段は送電電力量を示す。
 3 揚水発電所の揚水用電力量とは貯水池運営のための揚水用に使用する電力である。
 4 販売電力量の中には、自社事業用電力量20百万kWhを含んでいる。
 5 出水率は、自社の昭和56年度から平成22年度までの当該累計期間の30ヶ年平均に対する比である。

販売電力量及び料金収入

種別		当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	前年同四半期比(%)
販売電力量 (百万kWh)	電灯計	2,822	99.4
	電力計	512	103.1
	電灯電力合計	3,334	100.0
	特定規模需要	4,198	101.1
	電灯電力・特定規模合計	7,532	100.6
	他社販売	120	633.4
	融通	24	2.1
料金収入 (百万円)	電灯料	60,659	102.5
	電力料	70,686	104.9
	電灯電力合計	131,346	103.8
	他社販売	1,546	655.1
	融通	247	1.7

- (注) 1 上記料金収入欄の電力料には「特定規模需要」分を含む。
 2 上記料金収入には消費税等は含まれていない。

(2) 財政状態の分析

当第1四半期連結会計期間末における資産は、たな卸資産の増加はあったが、減価償却による電気事業固定資産の減少や受取手形及び売掛金の減少などにより、前連結会計年度末に比べ35億98百万円減の1兆6,152億52百万円となった。

負債は、支払手形及び買掛金の減少はあったが、有利子負債の増加などにより、前連結会計年度末に比べ198億37百万円増の1兆3,114億8百万円となった。

純資産は、配当金の支払いや四半期純損失の計上による利益剰余金の減少などにより、前連結会計年度末に比べ234億36百万円減の3,038億43百万円となった。

以上の結果、当第1四半期連結会計期間末の自己資本比率は、前連結会計年度末に比べ1.4ポイント減少し18.1%となった。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、ほくでんグループが対処すべき課題について、重要な変更はない。

(4) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間における研究開発費の総額は、7億45百万円である。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	495,000,000
計	495,000,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成24年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成24年8月8日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	215,291,912	215,291,912	札幌証券取引所 東京証券取引所 (市場第一部) 大阪証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株である。
計	215,291,912	215,291,912		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項なし

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項なし

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項なし

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成24年4月1日～ 平成24年6月30日	-	215,292	-	114,291	-	21,174

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はない。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の議決権の状況については、株主名簿の記載内容が確認できず、記載することができないことから、直前の基準日である平成24年3月31日現在で記載している。

【発行済株式】

平成24年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 9,710,800		
完全議決権株式(その他)	普通株式 204,407,500	2,044,075	
単元未満株式	普通株式 1,173,612		1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	215,291,912		
総株主の議決権		2,044,075	

- (注) 1 「完全議決権株式(自己株式等)」欄は、全て当社保有の自己株式である。
 2 「完全議決権株式(その他)」欄に、証券保管振替機構名義の株式2,000株(議決権20個)が含まれている。
 3 「単元未満株式」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式56株及び当社所有の自己株式58株が含まれている。

【自己株式等】

平成24年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 北海道電力株式会社	札幌市中央区大通東1丁目 2番地	9,710,800		9,710,800	4.51
計		9,710,800		9,710,800	4.51

- (注) 1 株主名簿上は当社名義となっているが、実質的に所有していない株式が100株(議決権1個)あり、当該株式数は上記「発行済株式」の「完全議決権株式(その他)」欄に含まれている。
 2 平成24年6月30日現在における自己株式は、9,711,809株(単元未満株式を含む。)である。

2 【役員の状況】

該当事項なし

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)の定めるところにより、同規則及び「電気事業会計規則」(昭和40年通商産業省令第57号)に準拠して作成したものである。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(平成24年4月1日から平成24年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成24年4月1日から平成24年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人の四半期レビューを受けている。

なお、当社の監査法人は次のとおり交代している。

第88期連結会計年度 八重洲監査法人

第89期第1四半期連結会計期間及び第1四半期連結累計期間 新日本有限責任監査法人

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
資産の部		
固定資産	1,483,229	1,481,780
電気事業固定資産	1,057,514	1,048,308
水力発電設備	109,918	112,180
汽力発電設備	95,876	92,977
原子力発電設備	280,826	275,748
送電設備	179,846	179,161
変電設備	80,796	80,033
配電設備	269,319	268,194
業務設備	37,148	36,325
その他の電気事業固定資産	3,780	3,684
その他の固定資産	46,539	46,454
固定資産仮勘定	143,692	145,044
建設仮勘定	143,540	144,510
除却仮勘定	151	533
核燃料	95,517	105,545
装荷核燃料	18,648	18,391
加工中等核燃料	76,869	87,154
投資その他の資産	139,966	136,427
長期投資	50,784	49,198
繰延税金資産	6,636	6,546
その他	82,656	80,786
貸倒引当金(貸方)	111	104
流動資産	135,621	133,471
現金及び預金	53,593	45,973
受取手形及び売掛金	37,821	26,593
たな卸資産	36,013	47,973
繰延税金資産	1,165	1,798
その他	7,714	11,656
貸倒引当金(貸方)	686	523
合計	1,618,850	1,615,252

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
負債及び純資産の部		
負債の部		
固定負債	1,043,372	1,022,505
社債	529,124	509,125
長期借入金	299,621	301,652
退職給付引当金	50,660	49,248
使用済燃料再処理等引当金	70,875	69,568
使用済燃料再処理等準備引当金	7,827	7,990
資産除去債務	79,439	79,896
繰延税金負債	547	105
その他	5,274	4,918
流動負債	232,840	273,887
1年以内に期限到来の固定負債	74,293	93,961
短期借入金	48,700	49,150
コマーシャル・ペーパー	-	42,000
支払手形及び買掛金	39,260	28,995
未払税金	10,543	15,053
関係会社事業整理損失引当金	1,863	882
繰延税金負債	23	7
その他	58,155	43,836
特別法上の引当金	15,357	15,015
湯水準備引当金	15,357	15,015
負債合計	1,291,570	1,311,408
純資産の部		
株主資本	314,932	292,694
資本金	114,291	114,291
資本剰余金	21,174	21,174
利益剰余金	197,609	175,370
自己株式	18,142	18,143
その他の包括利益累計額	1,342	329
その他有価証券評価差額金	1,342	329
少数株主持分	11,005	10,819
純資産合計	327,280	303,843
合計	1,618,850	1,615,252

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)
営業収益	146,173	138,604
電気事業営業収益	141,979	134,154
その他事業営業収益	4,194	4,449
営業費用	135,763	153,323
電気事業営業費用	132,206	149,485
その他事業営業費用	3,556	3,838
営業利益又は営業損失()	10,410	14,719
営業外収益	771	1,025
受取配当金	203	150
受取利息	259	263
持分法による投資利益	66	184
その他	241	426
営業外費用	4,441	4,088
支払利息	3,525	3,573
その他	915	514
四半期経常収益合計	146,945	139,629
四半期経常費用合計	140,205	157,412
経常利益又は経常損失()	6,740	17,782
渴水準備金引当又は取崩し	368	342
渴水準備金引当	368	-
渴水準備引当金取崩し(貸方)	-	342
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失()	6,371	17,440
法人税、住民税及び事業税	2,410	334
法人税等調整額	42	39
法人税等合計	2,453	294
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失()	3,917	17,145
少数株主損失()	21	47
四半期純利益又は四半期純損失()	3,939	17,097

【四半期連結包括利益計算書】
 【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失()	3,917	17,145
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,013	1,024
持分法適用会社に対する持分相当額	0	0
その他の包括利益合計	1,013	1,024
四半期包括利益	2,903	18,170
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,904	18,110
少数株主に係る四半期包括利益	0	59

【会計方針の変更等】

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

法人税法の改正に伴い、当第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更している。これによる影響額は軽微である。

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

(税金費用の計算)

税金費用は、当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法によっている。

ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっている。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

偶発債務

(1) 日本原燃株式会社

社債及び㈱日本政策投資銀行ほかからの借入金に対する保証債務

前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
46,442百万円	45,505百万円

(2) 原燃輸送株式会社

㈱日本政策投資銀行ほかからの借入金に対する保証予約債務

前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
8百万円	5百万円

(3) 従業員

財形住宅融資による㈱みずほ銀行ほかからの借入金に対する連帯保証債務

前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
19,132百万円	18,284百万円

(4) 社債の債務履行引受契約に係る偶発債務

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
北海道電力第252回社債 (引受先 ㈱三井住友銀行)	15,000百万円	15,000百万円
北海道電力第254回社債 (引受先 ㈱三菱東京UFJ銀行)	19,130百万円	19,130百万円
北海道電力第256回社債 (引受先 ㈱みずほコーポレート銀行)	19,800百万円	19,800百万円
北海道電力第257回社債 (引受先 ㈱みずほコーポレート銀行)	20,000百万円	20,000百万円
北海道電力第258回社債 (引受先 ㈱三菱東京UFJ銀行)	20,000百万円	20,000百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成していない。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりである。

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)
減価償却費	25,363百万円	23,164百万円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年6月29日 定時株主総会	普通株式	5,139	25	平成23年3月31日	平成23年6月30日	利益剰余金

当第1四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月27日 定時株主総会	普通株式	5,139	25	平成24年3月31日	平成24年6月28日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

前第1四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント	その他	計	調整額(注1)	四半期連結 損益計算書 計上額(注2)
	電気事業				
売上高					
外部顧客への売上高	141,979	4,194	146,173		146,173
セグメント間の内部売上高 又は振替高	341	16,513	16,855	16,855	
計	142,320	20,707	163,028	16,855	146,173
セグメント利益	9,668	482	10,150	259	10,410

(注) 1 セグメント利益の調整額259百万円は、セグメント間取引消去によるものである。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っている。

当第1四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント	その他	計	調整額(注1)	四半期連結 損益計算書 計上額(注2)
	電気事業				
売上高					
外部顧客への売上高	134,154	4,449	138,604		138,604
セグメント間の内部売上高 又は振替高	362	12,453	12,815	12,815	
計	134,517	16,903	151,420	12,815	138,604
セグメント損失()	14,610	289	14,899	180	14,719

(注) 1 セグメント損失()の調整額180百万円は、セグメント間取引消去によるものである。

2 セグメント損失()は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っている。

2. 報告セグメントの変更に関する事項

前連結会計年度末より、主たる事業として展開している電気事業のみを報告セグメントとして定め「その他の事業」を報告セグメントから外し、「その他」の区分に変更している。この変更に伴い、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報を当第1四半期連結累計期間の区分方法により作成している。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益又は四半期純損失()及び算定上の基礎は、以下のとおりである。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)
1株当たり四半期純利益 又は四半期純損失()	19.16円	83.17円
(算定上の基礎)		
四半期純利益 又は四半期純損失()(百万円)	3,939	17,097
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る四半期純利益 又は四半期純損失()(百万円)	3,939	17,097
普通株式の期中平均株式数(千株)	205,586	205,580

(注)前第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載していない。当第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在せず、また、1株当たり四半期純損失であるため記載していない。

2【その他】

該当事項なし

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項なし

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年8月8日

北海道電力株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	篠河	清彦	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	白羽	龍三	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	片岡	直彦	印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている北海道電力株式会社の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(平成24年4月1日から平成24年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成24年4月1日から平成24年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、北海道電力株式会社及び連結子会社の平成24年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

その他の事項

会社の平成24年3月31日をもって終了した前連結会計年度の第1四半期連結会計期間及び第1四半期連結累計期間に係る四半期連結財務諸表並びに前連結会計年度の連結財務諸表は、それぞれ、前任監査人によって四半期レビュー及び監査が実施されている。前任監査人は、当該四半期連結財務諸表に対して平成23年8月8日付けで無限定の結論を表明しており、また、当該連結財務諸表に対して平成24年6月8日付けで無限定適正意見を表明している。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。
以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。